

クラック抑制補強用短繊維

イージーファイバー

吹き付けモルタルに対する イージーファイバー混入効果

- 枠成形性が改善されるため、吹き付け時の飛散、崩落が低減し、吹き付けロスが軽減。
- 養生時の乾燥や温度などによる収縮クラックを低減する。もしクラックが入った場合でもその成長を抑制する。
- 従来通りの設備・機器で施工可能。特別の設備を別途必要としない。

配合について

● イージーファイバーは1m³当たり2kg混入する。

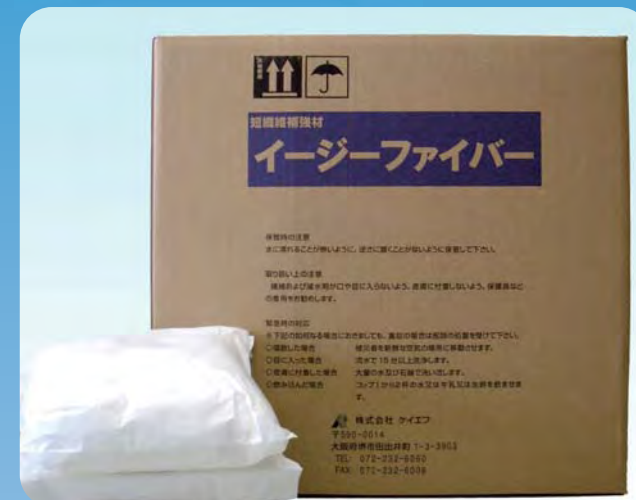
セメント C	細骨材 S	イージー ファイバー F	水・ セメント比 W/C(%)
420kg	1.24m ³	2.0kg (繊維量)	55%以下

※イージーファイバーは施工性向上のためにPP繊維(240g)に減水剤(72g)を混入したものを水溶性小袋に分けて梱包しています。(42小袋)

施工の際は、セメント袋2袋(25kg×2=50kg)に対して、イージーファイバー小袋1袋をそのまま吹付機に投入して下さい。



袋のままガン機に
投入可能。
(水溶性紙袋で1バッチ
単位に梱包)



現場での天候や風の影響による計量誤差を改善し、施工品質の向上に貢献します。10kg入り/箱



簡易吹付法枠用 補助網 グラスカーտ

特徴

- 出来型管理の向上に貢献。
- モルタルのリバウンドロスの低減。
- 主鉄筋D10・D13どちらにも対応で取付けが簡単。

特許
出願中!

取り付け、ワンタッチ!
主鉄筋にひっかけるだけ!

全国法面防災協会

事務局 〒590-0021
大阪府堺市堺区北三国ヶ丘町8丁7番7号
(株) ケイエフ内

TEL 072-232-7760 FAX 072-232-6008

工法の詳細はこちら。 URL <http://www.norimen.com/>

イージーシェルフ工法



NETIS登録 KK-160021-VE

全国法面防災協会

イージーシェルフ工法

『イージーシェルフ工法』は、緑の斜面の創作と防災を目的とする、簡易吹付法枠工です。

枠は自在性と施工性に富んでいるので、緑の空間を残した復元が可能となります。

■用 途■

- 1 法面の降雨や風化などによる小崩落や浸食を防止し、また枠内の緑化基盤材の安定と生育を助けることができるので、一般的なのり面保護工としての役割があります。
- 2 自然斜面や切土斜面の崩壊やすべりに対する安定対策を行う場合、鉄筋補強土工などと併用させることで、樹木や表土をできるだけ残すことができます。
- 3 荒廃した斜面を緑化で復元することができます。

■特 長■

- 1 枠は現場打ち吹付枠とし、枠の骨組みは鉄筋と鉄製組立材（グラスタンド・サンボ・パワースタンド）だけを使用するので、施工性が良く従来の吹付枠工と比べ、工期が短縮されます。
- 2 自在性に富むので、既存の樹木や植物の生育基盤となる有機質表土をできるだけ残すことができます。
- 3 多少の凸凹がある場合でも吹付枠と地山が密着するので、表面浸食に対する抵抗が高まります。
- 4 基礎工を必要としないので、逆巻き施工もできます。
- 5 経済性に優れます。
- 6 鉄製組立材（グラスタンド・サンボ・パワースタンド）を用いることにより、鉄筋位置をより確実に保持します。
- 7 標準スパンに限らず、多種の枠スパンの設計が可能です。

■グラスタンドの特徴■

- 1 鉄板打ち抜き構造なので、外力による変形に強く、設計で定められた鉄筋位置に対して極めて高い保持力を発揮します。
- 2 グラスタンド・サンボ・パワースタンドの外周サイズは出来型に対してどの部分もかぶりが40mm確保できるようにしており、吹付け後のクラック発生の低減に努めています。
- 3 鉄筋を導き入れる切欠き案内内部により設置が容易で施工性に優れます。
- 4 豊富に設けている開孔穴や切り込みによりモルタルの縁切りを解消すると共に、結束し易く施工性に優れます。
- 5 重ねることが出来るので持ち運びが容易です。
- 6 鉄筋保持・結束部分をV字型とすることで下からしっかりと鉄筋を支え、結束後のガタツキやズレがありません。

イージーシェルフ	幅 × 高さ	スパン長	主鉄筋本数	鉄製組立材	使 用 目 的
Aタイプ	350 × 150	1,500	D10またはD13 2本	グラスタンドA (1個/梁)	緑化基礎工と小崩落や剥離、落石に対する防止効果
Bタイプ	300 × 100	1,300	D10 1本	グラスタンドB (1個/梁)	緑化基礎工として表面侵食等に対し基盤材の保持効果
Cタイプ	350 × 150	2,000	D10またはD13 2本	グラスタンドA (2個/梁)	緑化基礎工と自然斜面で樹木を残す等環境を重視
Dタイプ	350 × 150	1,300	D10またはD13 2本	グラスタンドA (1個/梁)	緑化基礎工とAタイプの防止効果をさらに高める
Sタイプ	350 × 200	1,500 または1,300	D10またはD13 3本	サンボ (1個/梁)	鉄筋を3本使用し、より強固な崩落・剥落等の防止効果を高める
Pタイプ	350 × 200	1,500 または1,300	D13 4本	パワースタンド (1個/梁)	鉄筋を4本使用するため枠強度が最も高い。鉄筋挿入工併用工も可能

・グラスタンド、サンボ、パワースタンドは現場条件によっては2個使用することもあります。

■施工手順■

のり面整形
切土

金網張工

材配筋・組立
設置工

主アンカー工

養生シート張工

枠モルタル吹付工

枠内植生基材吹付工

設計法線に合わせて切土を行う。

対象のり面に対して金網（ラス）をアンカーピンで確実に固定する。

配筋を行いながらグラスタンド・サンボ・パワースタンドを取り付ける。

鉄筋交点に主アンカーを打設し、確実に固定する。S・Pタイプは補助アンカーを打設する。

枠内は吹付モルタルで汚さないようシート養生を行う。

鉄筋及び鉄製組立材をガイドに欠円状断面の枠モルタルを吹き付ける。

養生シートを撤去した枠内に対し植生基材を吹き付ける。

